

研修報告：副看護婦長の管理的役割について

— システム思考を用いた事例検討を通して —

○山上 栄子, 深澤佳代子他
副看護婦長研修メンバー

1. 研究動機および目的

副婦長の管理的役割について『婦長必携¹⁾』『看護婦業務指針²⁾』では、「婦長補佐役として婦長不在の際および必要に応じ、その業務を代行する。」と記されている。当院の看護婦規程では、「副婦長は婦長の業務をたすける。」と規定されている。我々副婦長メンバーは、昭和63年から2年間、システム思考による事例の作成を行ない、病棟における副婦長の管理的役割について学んできた。そして提出事例を分類し、副婦長の管理的役割を明確にする目的で解析・検討を加えた。

2. 研究方法

1) 期間：昭和63年4月～平成2年8月

2) 方法：

- ① 『システム思考による看護の管理行動（北尾誠英著・医学書院）³⁾』問題解決の全過程を参照し事例を作成・検討した。
- ② 検討結果から副婦長管理課題・管理業務を抽出し、関係ある領域に分類した。また管理業務を当院看護婦規則・看護婦長の任務と対応させ、両者の関連性を考察した。
- ③ 分析終了後、副婦長メンバーの看護管理意識を調査した。
調査内容：a) 副婦長メンバー17名が事例検討会を通して得た点
b) 日頃副婦長の役割をどのようにとらえているか
各個人の意見を広くたずねるため、自由記述とした。

3. 研究結果

1) 事例は全18例であり、事例分析過程上の目標18例分を管理課題として関連のあるものをまとめると以下の3領域に分類された。

- ① 部門内・部門間の調整（7事例・39%）
- ② チームワーク・メンバーの教育・育成（7事例・39%）
- ③ 患者・患者家族への対応（4事例・21%）

事例分析過程上の方策18例分を管理業務ポイントとして当院看護婦長任務に対応させると9項目に関わっていた。管理課題と管理業務ポイントを対応・配置すると表1のようになった。

（表1）

- 2) ① 副婦長メンバーが事例検討会を通して得た点は、主に
- ・問題に対し、客観的・多角的視点を養い、問題解決方法の訓練になった。
 - ・副婦長の役割の意識づけがされた。

の2点であった。

② 副婦長の管理意識については以下の通りであった。(複数回答)

副婦長の役割は「婦長の職場における管理方針を知り、その補佐をする。(12名)」があがった。具体的な管理業務としては、

- ・チームメンバーの指導・相談役、婦長とメンバーの調整 (12名)
- ・看護計画の実践・評価 (メンバーの教育を含む)、患者・患者家族の教育・指導 (7名) があげられ、
- ・その他として

婦長の方針により、業務内容は変わる、三交替の中で副婦長業務の遂行は困難、などの感想があった。

4. 考 察

1) 表1の○印のグループを囲み、管理課題と管理業務の関連性を考察すると次のことが言える。

- ① 他職種・他部門との連携など部門内・部門間の調整に関しては、婦長の運営方針を理解した上で婦長と協力して医師や職場間の調整を図る必要がある。
- ② 職場のチームワークやメンバーの育成・教育に関するものについては、チーム意識の向上や動機づけを含んだ個別指導に業務が集中している。
- ③ 患者・患者家族との対応では、患者の行動を理解した上で看護計画を組む必要がある。

2) 一般的に看護管理者に必要とされる条件として、三宅⁴⁾は、まず、

- ① 他部門との相互関係、部門内部門外への影響、変化を考慮する総合的判断力があることをあげ、次に、
 - ② 病棟内で行なわれる日常の診療・看護の知識、技術に精通していること (技術的技能の所有)
 - ③ 患者、同僚、上司との人間関係処理技能のあること
- を、あげている。

今回、システム思考を用いて問題解決方法を学んだ過程は、我々副婦長にとって、客観的判断力、多角的視点を養う上で有効な手段であったと思われる。また、副婦長の管理的役割についてのアンケート結果でも、職場の人間関係調整、看護計画の実践・評価、教育を副婦長の管理業務と考えているものが多く三宅⁴⁾のあげた看護管理者に求められる条件の②、③については特に強く意識づけをしていると思われた。

5. まとめ

副婦長は、婦長の補佐役であり、婦長業務を漠然と補佐するのではなく、婦長とメンバーの人間関係調整、直接的看護業務の管理など、その一部を補佐するものであるということが明確になった。今後は副婦長の役割意識を更に持ちながら、婦長とのコンタクトを密接にして、病棟内の問題をメンバーと共有し解決することに役立てたい。そのためにも、副婦長業務内容を明文化することも必要であろう。

〈引用文献〉

- 1) 大森・吉武：婦長必携第3版，1986，医学書院
- 2) 日本看護協会看護婦部会編：看護婦業務指針，1985，日本看護協会出版会
- 3) 北尾誠英編：システム思考による看護の管理行動第1版第1刷，1982，医学書院
- 4) 三宅史郎：婦長人事の問題点，看護展望7(6)：29～33，1982

表1 看護管理課題と看護管理業務の対応表

領 域	部門内部門間の調整							チームワークとメンバーの育成							患者への対応			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
ケース No																		
看護管理 課題																		
看護 管理業務																		
運 営 方 針	○	○		○	○		○											
他部門との連絡 協調	○		○	○		○	○								○	○	○	○
看護職員の教育 指導(チーム意識)									○	○	○	○	○	○				
看護職員の教育 指導(個別指導)								○	○	○	○	○	○	○				
看護業務の指導														○	○	○	○	
看 護 計 画													○		○	○	○	○
患者の療養生活 指導															○	○	○	○
患者家族指導															○		○	○
患者の事故防止			○		○													
勤 務 計 画													○					